


個票7 シカ柵の設置による樹林や湿地の保全〔森2(1)①5-1 森5(1)①2-1〕

(2011年作成)

配慮の視点	種の多様性への配慮	配慮項目	野生生物の保護・保全
	野生動物への対策		野生動物の排除
配慮事項	希少種の保全 野生動物の侵入の防止		
配慮事例	希少種の生息・生育地の保護 防護柵の設置による被害の防止		
内容	<p>●シカ柵の設置による樹林や湿地の保全</p> <p>【解説】 近年シカの個体数が増加し、里地や山間ではシカの採食による林床の植物の被害が増加しています。特にシカは柔らかい芽生えを好んで食べるため、後継樹が育たないという被害がでています。また山間の湿地では、希少種が多く生育しており、シカの被害により絶滅寸前の生育地も見られます。このような場所では、シカの被害を防止するための対策が望まれます。</p> <p>【具体的な工法・配慮事項】</p> <p>●ネットの設置</p> <p>①保全対象地の周囲にネットを張ります。ネットはシカが乗り越えないように高さ2mは必要です。</p> <p>②降雪が著しい地域では、積雪によるネットの倒壊を防ぐため、冬場はネットを回収する必要があります。</p> <p>【事例1】</p>		
		<p>【場所】 兵庫県 古生沼・古千本湿原</p> <p>【環境配慮の内容と方法、工法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の活動団体の自発的な活動により湿地の保護が始まった。 ・ 毎年雪解けを待って湿原の周囲を網で囲い、シカの侵入を防いでいる。 ・ 2001年から実施されており、最近では県も協力して作業が行われている。 	
	出典：1		

【事例 2】



【場所】

兵庫県川西市 黒川

【環境配慮の内容と方法、工法】

- ・ 黒川地区の里山林には、シイタケのほだ木や炭の生産などに利用するため、根元から 1m ほどの高さで繰り返し伐採されてきた台場クヌギと呼ばれるクヌギが多く、今も大切にされている。
- ・ 近年、シカの採食による台場クヌギへの被害が著しいことから、ネットを張って保護している。

参考資料

1 近畿中国森林管理局HP

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/hyogo/mori-grow/kosenumahozen.html>